

株式会社 栃木サッカークラブ  
代表取締役社長 水沼 富美男 様

## 要 望 書

～ 組織改革状況の再確認について ～

クラブ創設以来の経験のない厳しい環境のなか、水沼社長におかれましては、クラブ経営・諸活動に対して、孤軍奮闘かつ献身的な動きにあらためて敬意を表します。

さて、2016年シーズン新体制による栃木SCのスタートに際し「継続的支援宣言」をキャッチフレーズとして掲げている栃木SC後援会としても、例年以上の支援活動を進めるには、後援会会員の疑問を払拭するだけの組織改革の実績が必要最低条件だと考えております。

大変不本意ではありますが、昨年11月20日に提出した「要望書」の内容に未だ具体的な組織改革が見られない現状において、例年通りの支援活動に支障を来しているため、再度、下記の件に関し、具体的かつ早急なる回答を要望させていただきます。

### ※ 要望事項 <組織体制の再確認>

- ・J3降格の原因に大きく関わったフロント担当責任者の処遇について、定期人事異動による対処と回答あったが、会社・役員の誹謗中傷をする行為等、自身の保身のための由々しき行為であると共に、2016年スタートの各種対外事業に今まで通りの立ち振る舞いは、今期ゼロベースからの再スタートを強く望む栃木SC後援会の要望に反していると思われる。

いつ、どのような対処をするのかを明示いただきたい。

- ・今後、新社長のもとでの会社経営および組織運営に際し、予算はもちろん、組織のスリム化や人事考査の厳格化など、社会通念上も現状の延長戦では許されないことは明確であり、身を切る改革を断行するクラブに対し、後援会としても今までとは違ったかたちでの強力な支援の必要性も視野に入れなくてはならないため、具体的な新体制による経営方針および運営体制の明示を要望します。

- ・上記事項に対し、明確かつ納得できる回答を 1月15日まで をお願いいたします。

2016年シーズンの公式諸活動が始まる前までを回答期限として誠意ある回答を求めます。

今後共、物心両面でクラブを支援していく責任ある組織上で、納得の得られる回答がなされるまでは、栃木SC後援会として支援活動を自粛しなくてはならない旨も付け加えます。

今回の再度の「要望書」活動は、栃木SCと栃木SC後援会のみならず、行政・経済界・地域、そして多くのサポーターを含めたすべての支援者が「一枚岩」となり、栃木SCが地域の将来を見据えた「信頼されるクラブ」に成長する為の民意であるご理解下さい。

平成28年 1月12日

栃木サッカークラブ後援会